

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立依知小 学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 田所 直子	
学校教育目標		学校経営の方針			
自律と尊重 自律: 自分で考え 自分で決めて 自分で行動する児童を育てる。 尊重: 互いに認め合い 折り合いをつけながら生活できる児童を育てる		・「ホーム」中心に学ぶことができる学校づくりをめざす。・「自律した学び」ができる子どもを育てる。・すべての教職員ですべての子どもを育てる意識をもち、チームで児童支援をする。・学校(全教職員)、家庭(全保護者)、地域の協働体制で子どもを育てる。			
今年度の重点目標					
①ホーム中心の学び ②自律した学び手の育成 ③学ぶ意欲の向上 ④児童指導、児童支援体制の充実 ⑤ 地域学校協働活動の推進					
評価項目・指標等	基本目標	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策	
ホーム中心の学び	2・3	・校内支援ルームの充実 ・ホームクラスでの授業改善	・校内支援ルーム(えちっこルーム)の充実で教育的ニーズに合わせ、一人一人への支援ができた。 ・ホームクラスで学ぶことを基本とし、校内研究の国語を中心に、全ての子どもが「わかる・できる」授業改善が進んだ。	・校内支援ルームの充実(運営マニュアルの整理と保護者への周知) ・算数科における「わかる・できる」を目ざした指導体制の工夫	
自律した学び手の育成	1・3	・自主学習の支援 ・児童の主体的な学びを支える授業改善	・従来の「宿題」から、3年生以上は段階的に自主学習への移行を図り、多くの児童が主体的に、計画的に学ぶことができつつある。しかし、自主学習の取り組み方の具体に支援の必要な児童への対応が課題である。	・自主学習マニュアルを改訂し、児童・保護者へ周知。 ・発達段階や児童の実態に応じた自主学習への具体的な支援策を教員間で共有。	
学ぶ意欲の向上	1	・校内研究国語科の授業改善 ・自主学習でのGIGAスクール端末の有効な活用	・外部講師による国語科のモデル授業参観や講演から、教員の授業改善への意欲が向上し、興味関心を高める導入の工夫や、「わかる・できる」という実感を持たせる教材、ワークシートの工夫により、学習意欲の向上が図られた。 ・GIGAスクール端末の持ち帰りで、自主学習への意欲が高まった。	・校内研究国語科の重点化(「文学的な文章」指導) ・GIGAスクール端末を使った家庭学習の仕方の研究	
児童指導、児童支援体制の充実	2	・学期ごとの児童と担任の面談 ・サポートタイムの充実 ・週1回の支援会議	・定期的な担任との面談で子どもたちの、心理的安定が図られた。 ・週1回の支援会議、打合せ後の児童理解タイムで、すべての教職員ですべての子どもを支援することができた。 ・サポートタイムで、全ての職員ですべての子どもを支援できた。	・職員の異動が多いので、校内支援体制の目的について、全職員での共通理解を図る。 ・サポートタイムが継続できるような時間割編成をする。	
地域学校協働活動の推進	3	・スタートカリキュラム ・地域の方との協働活動	・スタートカリキュラムの充実で、1年生の児童の心の安定が図られた。 ・投げ方教室の開催で、体力テストの結果の向上につながった。 ・枝切りプロジェクト、縄跳び台の修繕等、教育環境の充実が図られた。	・スタートカリキュラムの理念を共有し、学校全体で取り組む。 ・地域の方々との絆づくり(工作教室の充実) ・地域の施設利用や公民館とのつながりを図る(5年生の体験活動を新設)	
今年度の学校関係者評価委員会からの意見					
学校運営協議会の中で、関係者評価を行った。事前に評価アンケート結果を配付し、当日は全委員から、質問・意見をいただいた。「自主学習の理念は、児童に必要な力であることがよくわかる。児童自身にも、保護者、地域へも、具体的でわかりやすい発信ができるとよい」など前向きなご意見や改善案をいただいた。現在行っている地域学校協働活動の充実や推進をしつつ、学校教育目標「自律と尊重」をめざし、児童の持つ力を引き出す教育活動を今後も進めていけるとよいという意見もいただいた。					
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針					
児童にかかわるすべての大人が、学校教育目標「自律と尊重」を意識していると感じる。児童にも浸透しつつあり、児童が目標を意識しながら自分の生活を振り返ることができている。入学当初の1年生のスタートカリキュラムは、弾力的な時間割の設定で、ゆったりとした時間の中で児童同士のぎずなづくりに時間をかけたことで、児童の心の安定・安心につながった。運営には保護者や地域の方々の協力をいただいた。「すべてのひとりに届く教育を」をめざし、ホームクラスの授業形態の工夫や授業改善とともに、多様な学びに対応する新たなリソースルームが充実した。ホームクラスで、すべての児童が学ぶことのできる集団づくり、授業づくりにさらに力をいれる。また、引き続き、児童のメタ認知力を促し、目的意識を持たせ、主体的な学びができるような児童支援をめざしたい。					